

**令和5年度 第1回こまきこども未来館講座運営会議
会議要旨**

日 時	令和5年7月6日（木）午後6時～7時30分
場 所	こまきこども未来館 クラブ室（ラピオ3階）
出 席 者	<p>【委員】5名（※敬称略） 玉置崇、長江美津子、植松浩二郎、采女隆一、熊澤嘉乃（1名欠席）</p> <p>【事務局】8名 こども未来部長、こども未来部次長、多世代交流プラザ所長、事業推進係長、係員（5名）</p> <p>NPO 法人10人村（受託者）（3名）</p> <p>【傍聴者】1名</p>
会議資料	<p>次第</p> <p>資料1（こまきこども未来館講座運営評価シート）</p> <p>資料2（体験ひろば2023年度実施計画概要）</p> <p>資料3（体験ひろば2023年度年間計画）</p> <p>参考資料（こまきこども未来館体験ひろば2023冊子）</p>
会議内容	<p>1 こども未来部長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>（1）令和4年度講座運営の評価について</p> <p>（2）令和5年度こまきこども未来館講座等開催事業について</p>
会議要旨	<p>1 <u>こども未来部長あいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまきこども未来館については、令和3年3月にオープンし、コロナ禍として入場制限をする中で、目標来館者数を30万人としていたが、昨年度1年間で約26万人の来館者があった。今年の5月からコロナの分類も変わったことで入場制限をなくし、その後も多くの来館者があり、今年度は目標来館者数30万人を超えるのではないかと期待している。また、オープン当初からの来館者数は先月中に50万人に到達した。 ・来館者にリピート利用していただくには、様々な講座や体験活動を実施する「体験ひろば」での活動が重要になってくる。 ・「体験ひろば」の昨年度の実績報告と、それに対する評価を行うが、それぞれの見地からご意見をいただき、より充実した講座等の実施につなげていけるよう委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。 <p>2 <u>議事</u></p> <p>（1）<u>令和4年度講座運営の評価について</u></p> <p>※事務局から参考資料（体験ひろば冊子）により令和4年度講座運営の説明、資料1により評価シートの説明</p> <p>活動報告だけでは、委員の方で一から評価するのは大変難しいため、評価シートには発注者である市としての講座運営についての評価を記載した。各評価項目について、評価理由を確認し、加筆・修正することで最終的に当会議の評価としたい。</p>

委員長
（玉置委員）

	<p>《質疑応答》</p> <p>○利用対象児童が日常的に気軽に利用できる環境づくり 【受注者（10人村）】A 【発注者（市）】A</p>
長江委員	<p>昨年度の会議で、平日午前中の利用者は乳幼児が中心となってくるので、時間帯をうまく活用できるとよいと指摘したが、早速取り入れていただいていた。具体的にどんな遊びをしているか様子を聞かせていただきたい。日本の伝承文化を取り入れるように、季節に合ったものをしていただけたらと思う。</p>
事務局	<p>昨年度は、乳幼児親子に向けた工作を週に1回行った。季節に合った内容にしており、親子で作成したものを「お家で飾りたい、家族に見せたい」という声をいただくことが増えてきた。楽しみに来ている児童も増えてきて、例えば、にぎにぎが出来るようになったなど児童の成長を感じることもある。職員もその様子をみながら、次のメニューを考える動機付けとなっている。</p>
采女委員	<p>「夜ラボ」を中高生対象に行っているとのことだが、中学生の割合はどれくらいか。</p>
事務局	<p>「夜ラボ」は交流ひろばで実施しているが、中学生は19時まで、高校生は20時までの利用としている。割合としては、高校生より中学生の方が多かった。高校生は人数が少ないが2、3人のグループで来ていることが多い。一方、中学生は一人で来ていることも多い。</p>
	<p>○利用対象児童が日常的に気軽に利用できる環境づくり 【受注者（10人村）】A 【発注者（市）】A</p>
植松委員	<p>受注者（10人村）のコメントで「発育」と「発達」という言葉を使っているが、区別する必要がある。評価のポイントは「発達」であり、親ではないのでここで「発育」を使うのは相応しくない。「未来リテラシーを育む」のがコンセプトであるから、たくさん遊びに来てもらって、その中で発達発育を手助けしていくということを今後大事にしてほしい。</p>
	<p>○学びを振り返り成長を実感できる環境づくり 【受注者（10人村）】C 【発注者（市）】B</p>
玉置委員	<p>受注者がCとした理由を具体的に聞きたい。</p>
事務局	<p>児童個人として考えた時に、振り返りについて十分な声かけができていないのが現状である。グループで活動する際はグループでの振り返りはできた。</p>
熊澤委員	<p>受注者の評価は、ある程度のところはできたけど、もう少しやりたかったということを含めての評価だと思う。一方、市としての評価は、やれたところまでの評価なので、Bでよいと思う。</p>

玉置委員	<p>現在「振り返り」というのは、学習指導要領にも重要視されていて、また、文部科学省も「学習の自己調整」という言葉を出している。誰かに言われて学ぶのではなく、自分はこのことをしたらもっと伸びるなどと自らを振り返りながら、次のステップに進むことが「未来リテラシー」と合致していると思うが、そういう意味においては、受注者で本人の振り返りとして冷静に評価したという部分では理解できる。しかし、評価はBでよいと思う。</p>
采女委員	<p>振り返りがあって、次の自分にどう繋いでいくか、客観的に自分を見つめることがとても大切になってくる。しかし、それはなかなか難しく、一回自分を外に置かないと自分で自分を見るというのはかなり高度である。だからこそ、子ども達の能力を高めていき、知識だけではなく、これからの未来で起こる課題について対応していく力に繋がると思う。受注者のコメントにあるとおり、子どもたちが客観的に自ら考えて行っている様子もあることから、評価はBでよいと思う。</p>
植松委員	<p>個人にアンケートを取った後に、どのように子どもたちに返しているか。</p>
事務局	<p>アンケートでは大きく2つを聞いている。1つ目は「何が楽しかったか」。2つ目は「今後どんなことをやりたいか」。中には、「よく分からなかった」というコメントもある。アンケートは回収して終わりなので、「よく分からなかった」という子には何が分からなかったのか聞けずにいる。実際に講座の中身の振り返りとして、次に参加される子どもたちにフィードバックできるようにするため、アンケートを実施している。子どもたちには思ったことを言語化するのが難しく、単純に「楽しかった」というコメントを書きがちで、何が楽しかったのか、どういうことをしたことで面白いと思ったのかが、アンケートを取っただけでは振り返りが十分ではない。アンケートを記入する際にヒアリングも行っている。しっかりとコミュニケーションを取っていくのが大事であると思った。</p>
玉置委員	<p>フィードバックは声をかけることが中心か。</p>
事務局	<p>声をかけて、すぐに反映できるものは実施していくという感じで行っている。</p>
植松委員	<p>評価はBでよいと思う。受注者のコメントに「検討課題」とあるが、個人にどう返すか、落とし込むかを改善していかないと今後も評価は変わらないと思う。価値づけが大事だと思う。また、市の評価の「客観的な視点」も大事だが、これは、どうすれば客観的な視点で自らを振り返ったことになるのかという部分が残る。計画の中で時間を取り、ディスカッションをするのも1つの方法だと思う。</p>
長江委員	<p>評価はBでよいと思う。ポートフォリオの作成は個人だと難しい。また、知らない子同士が集まって作成するのも難しいと思う。しかし、コメントを</p>

	<p>見ると、努力はされているように見受けられる。アンケートの中で「楽しかったこと」を聞いているが、楽しさには10の質があって、「知らなかったことを知った」とか「達成できたことが楽しかった」、または「好きな人とともにいることが楽しかった」などと分けられるので、具体的に何が楽しかったのかをアンケートに記入しておく、自分たちで振り返りやすいのではないかと思う。</p>
玉置委員	<p>学校現場での振り返りがどのように行われているかを参考にすると、1人1台の端末に振り返りを入れて、児童同士でお互いに読み合う。読み合うと、その学びがお互いに喚起してうまくいっているという事例がある。あくまで振り返りは自分の振り返りなので、他人の振り返りを見ると、いろいろな視点が見え、考え方が豊かになっていく。「振り返りなさい」といっても児童には難しいので、「心に起こったこと、モヤモヤしていることも書きましょう」というと、今度こんなことをやってみたい、こんなことを調べてみたいという、子どもの次への意欲に繋がる。学校のように端末を使い、個人シートを作って、何度も来館されている児童に振り返りをさせるのもよいのではないかと考える。もし可能であれば、それを学校と共有できると、児童とのコミュニケーションになると思うので、検討課題に入れてほしい。</p>
采女委員	<p>未来館（体験ひろば）という公共の場で行われていることは、学校教育での就学の義務とは異なり、ある意味しぼりが無い。市民が自由に来館し、自由に参加することで、その中で行う振り返りの質というのは、一体どこを目指していくのかというのが分からなくなってきた。評価のS～Dは、一体何が出来たらAになるのか、Bになるのか。未来館として目指す振り返りの質は、学校教育とは異なるのではないのかと思う。</p>
玉置委員	<p>私は、未来館立ち上げの時から関わっており、その頃からポートフォリオの話をしている。未来リテラシーを育てるためには、自らが気づき、自ら構築するという仕組みを作らないと、「ああ面白かった、楽しかった」で終わってしまうのはもったいない。体験ひろばのフェイスブックを見ても、学校以上に豊かな学びをしていることがわかる。コミュニケーターに指導してくれるとは個人的には思っていないが、その自分の学びを自分で振り返るというシステムをつくってあげたら、子どもたちは育っていくのではないかと思う。学びは、学校だけで終わる必要はない。</p>
采女委員	<p>学校と未来館での体験が結びつくと思う。いろいろな体験が子どもたちをつくっていく。受注者が評価したCと、自分たちが評価するBは、同じ観点で見ているのか。個人の振り返りができていないということだが、そこまで未来館に求めていいのかとも考える。</p>
長江委員	<p>ここが公共の児童館ということで、確かに学校ではできない体験ができる素晴らしい場所だと思うが、どこまで求めていいのかとも思っている。幼児教育の場だと、遊びの定義というのは、自分で好きなものを選んで、それを満足するまでやって、自己完結する。その自己完結というのが、自分自身へ</p>

植松委員	<p>のプレゼントである。自分で達成できて、単純に楽しかった、面白かったと思って帰っていただけでもいいと思う。</p> <p>学校では教育内容や到達目標が予め決められていることが多い。未来館での体験は、できるところまでいけばいいので、来館者それぞれに各自の振り返りをさせることより、「こんなことができるようになった」という新たな発見がある場所であってほしい。</p> <p>○利用促進につながる効果的な広報活動 【受注者（10人村）】B 【発注者（市）】B</p>
玉置委員	<p>児童へのお知らせは、チラシの方がよいということだが、1人1台端末を持っているので、データを流すという方法では効果はないのか。</p>
事務局	<p>児童がチラシを持って帰って、保護者が目を通すことによって、保護者が勧めて児童が参加するということもあり、そういう経路を確保するには、現状はチラシの方がよいと思われる。実際に、昨年度チラシを見て参加してくださった人もいたので、効果的であると思う。</p>
采女委員	<p>市の学校教育ICT推進室でも、児童や保護者に向けた情報をデジタルで配信するという案が出ている。デジタルとペーパーのメリット・デメリットがお互いにある。また、1人1台端末を持っているけれど、まだ始まったばかりで、現在情報がたくさん入ってきているところである。情報過多になっていて、どれが必要か必要でないかの判断もしづらく、画面に表示させなければ見ることもない。ペーパーの方が現状ではまだ目に留まる率が高い。</p>
事務局	<p>テトル（tetoru）は将来的に使えるようになるか。</p>
采女委員	<p>現在、学校からの通信をテトルで配信しているので、技術的には可能。テトルは児童の欠席連絡や、保護者と児童への大切な情報のやりとりを一番に考えて使っていないといけない。企業や後援団体等からの情報配信があまりにも多いと、そもそもテトルを取り入れている理由は何かということになってくる。テトルも始まってまだ半年ほどになり、今後の活用状況を見てからとなる。</p> <p>【議事（1）⇒事務局（市）案で承認】</p> <p><u>（2）令和5年度こまきこども未来館講座等開催事業について</u> ※事務局より資料2・3の説明</p> <p>今まで専門講師に依頼して講座を開催することが多くを占めていたが、交流・体験CAMPが活性化され、地域の企業・団体等にボランティアとして協力いただいたり、職員が講師となって講座を開催したりすることが増えてきている。今後もそちらに比重を置いていきたいと考えている。</p>

植松委員	<p>《質疑応答》</p> <p>外部講師による専門講師ワークショップとコミュニケーターワークショップの位置づけをどう考えているのかが説明でよく分かった。講座を進めるにあたり必要な講師を呼ぶという観点で、目的と計画を持って進めていってほしい。また、費用対効果の観点についても持つておくべきと思う。</p>
長江委員	<p>夏休みならではのことだが、普段保育園等に通っている3～5歳の幼児対象のものがあまり入っていないと感じた。幼児の親子を対象に楽しめる企画もしていただけるとよい。チラシを学校に配布しているということだが、保育園等にも配布するようにしたらよいと思う。小さいうちから、未来館で遊ぶのに慣れると、その子にとってこれから小学校に上がって行ったときに通いやすい場所になるのではないかと思う。</p> <p>【議事（2）⇒事務局案で承認】</p>